

---

# 緋弾のエリア ~ 負完全な転生者 ~

クロス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

緋弾のアリア〜負完全な転生者〜

### 【Nコード】

N2526Z

### 【作者名】

クロス

### 【あらすじ】

もといた世界を大嘘憑きの誤作動で虚構してしまった球磨川禊はなぜか大嘘憑きの能力が変に使われて緋弾のアリアの世界に転生することになった。そこで球磨川は武偵神崎・H・アリアたちに出会い共に戦ったりしたりする

序章 く転生く(前書き)

書きたかったから書いてみました。

## 序章 　↳ 転生

序章 　　　　　↳ 転生

「おい、主起きんか！起きろといったら起きんか！！」

『お母さん後五分…』

「ワシやお母さんじゃないわ」眼を開けてみると目の前にサンタさんみたいな容姿のおっさんがいた

『じゃあどちら様？』

「わしや神様じゃ」どうせ神様出てくるんだったら可愛い女神だったらよかったのに

「失礼なこと考えるなあ」どうやら自称神様（笑）は心を読めるよ  
うだ

「自称じゃないれっきとした神様じゃ」

『じゃあ神様僕が死んだんだったら、大嘘憑きで生き返るはずなんだけど』

オールフィクション

「残念ながらその大嘘憑きの誤作動のようで主のいた世界が虚構さ  
れたんじゃよ。」

『じゃあなんで僕がここにいるの？』

「大嘘憑きの能力が変に使われて転生するようじゃよ」

『じゃあ、めだかちゃん達は死んじゃったの？』

「……………」自称神様（笑）が黙ったということは死んだのだろう

『どこに転生するの？いちご100%？それともT o L o v e r？』

「いや、緋弾のアリアじゃ」

『緋弾のアリアってあのラノベの？』

「そうじゃ、それで危ないから武器をやるうごんなのがいい？」よ  
かったあたりだ

『じゃあ威力の高い銃二丁で』

「威力が高かったらそのぶん反動が重いぞ」

『大丈夫、反動を虚構するから』

「じゃあ、パイファー・ツェリスカ二丁でいいか」そのパイファー  
なんとかを渡してきた

『うん、ありがとう。あ、あと学校は東京武偵高で学年とクラスは、  
キンジ君達と同じ2年A組でよろしく』

「わかった。そうしておこう。あ、あと履歴は適当にたてておいた

から、一応書類を渡しておこう」書類を渡してきた

一般高からの転校生だって、しかも学力が低すぎる失礼だなあ

『後ネジもちょうだい』

「ほい、あと、緋弾のエリアに関しての記憶を消しておくからの」  
ネジを渡してそういった

『まあ仕方ないよね、ネジありがとう。この学ランのままでもいいようにしてよ』

「しょうがないその学ランを防弾にしないと、あとは主だけ特別と  
いうことにおこつかのう。家については書類にかいておいたか  
らのう」

「そろそろ時間じゃ。くれぐれも世界を虚構せんでくれよ」

『楽しみだなあ』そう言ったところで真っ暗になり意識がぶっ飛んだ

「……………さらばじゃ 球磨川楔」

第一弾 〽学校までの出来事〽(前書き)

球磨川さんは一応性格を戦拳後能力が戦拳前ということにして  
くださいm(〽)m

## 第一弾 学校までの出来事

第一弾 学校までの出来事

『転生できたのかな?』回りを見渡すと道路の真ん中にいた

『ここどこ?とりあえず書類を読んでみよう』手に持っていた書類を見ると

主の行くことになる学校は辺りに見える学校じゃとか書いている

『……………辺りにって…ここ体育倉庫の中なんだけど…………』とりあえず外に出てみると

『あれ?こっちに何か飛んできてる?』紙飛行機みたいなのが飛んできたしばらく見てみると

『うわ!パラグライダーだし人が乗ってる!』とりあえず体育倉庫に戻るとそれもついてきてしまった

『ど、どうしよういきなりピンチだ』とりあえず横に移動すると

ドシャーン、と音をたてパラグライダーが墜落した

『…まあいいや、僕には関係ないし。そんなことよりも学校にいかなきゃ。』

体育倉庫から出てさっき見えた学校みたいな建物の方に歩いていった



『あれが学校じゃなかったらどうしよう。記憶を消されたせいで位置がわからないじゃないか』

自称神様（笑）についての愚痴を言いながら歩いていると、何か変な乗り物が10台きた

『この世界って変な乗り物があるんだなあ。』そういうときいきなり変なのについていた銃が発砲した

『え!?!』

銃弾にいきなり頭を貫かれて死んだ。するとすぐに大嘘憑きが発動して生き返った

『すごく痛い。とりあえず体育倉庫に逃げよう』

走って体育倉庫に戻ると、途中にまた撃たれて死んで生き返った。

『そついや僕も銃を持っているんだっ』

そう言っつて学ランのポケットの中からパイファーなんか（以後パイファー）を取り出した。

『反動が大きいんだっ。たっけ？大嘘憑きで反動を虚構しなきゃ』

パイファーを構えて撃った。ドガーン、すると一台の変な乗り物がスクラップになった。

『自称神様（笑）のいった通り凄い威力だ………こんなのに二丁撃った

「最強じゃね？」

この後何回も逃げて死んで生き返って逃げながら撃って壊してを続けて残り三台になった。

体育倉庫の敷地への曲がり角のある前を見ると変な乗り物が五台こちらに向かって来ていた

『とりあえず数を減らさなくちゃ』そう言ってパイプアーをもう一丁を取り出して両方で撃った

遠くて慣れてなかったから一発外したがもう片方が当たりスクラップにした。そして体育倉庫の中に向かって走った

( いったい何回死んだんだろう )

考えながら体育倉庫の中に入った。すると……跳び箱の中に銃を変な乗り物に向かって構えている女の子がいた

「さっきからの銃声はあんたね？あんたも手伝いなさい！」ピンクのツインテールが言ってきた

『えー、せつかく逃げてきたのに？』嫌そうにいった

「その学ランあんた一般生？」

『今日から僕も武偵だよ』

「じゃあなんで防弾制服着てないのよ！」

『大丈夫、この学ラン防弾だから』

「なら戦えるわね。ちょっとあんたも戦いなさいよ！」一緒に跳び箱の中に入っていた男の人に言っていた

『君たち武偵なの？もしそうだとしたらもう始業式始まつてると思っただけ？』二人に言ってみたら

「「武偵殺しに巻き込まれたんだ（のよ）！」」「二人ともハモって言った

『早くあれやってよ。さつきからついてくるんだ』

「だからあんたも手伝いなさい！」銃で撃ちながら言ってきた

『この距離じゃあ弾の無駄になっちゃうよ』

するとさつきまで跳び箱の中に入っていた男の人が女の子をお姫様だっこをして出ていきなり変な乗り物に向かって銃を撃った。

すると7台の変な乗り物が壊れた。

（そんなことするんだっいたらはじめからやってくれたらいいのに）そう考えているとまた銃弾が頭を貫いて、また死んで生き返ったそれを見ていた女の子が驚いていた。

「あ、あんた今頭銃弾が貫いて……血が……なんで生きてんのよ」震える声で言ってきた

『えーと、壊してもらったし行こつと』走って逃げた

「ちょっと教えなさいよ！」その声を聞いたあともう聞こえなくな  
った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2526z/>

---

緋弾のエリア～負完全な転生者～

2011年12月10日01時47分発行